

中部地方整備局のダム事業進捗等について

別表

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回事業評価時点 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト削減
新丸山ダム建設事業	右岸:岐阜県加茂郡八百津町 左岸:岐阜県可児郡御嵩町	昭和55年度 ～令和11年度	約2,000(R1) 約2,000	<ul style="list-style-type: none"> ・木曾川流域内は、名神高速道路等の高速道路、JR東海道新幹線等、国土の基幹をなす交通の要衝となっている。 ・氾濫原内市町村の人口は近年大きな変化はないが、東海環状自動車道、リニア中央新幹線(令和9年開業予定)等の整備により、地域開発や市街化が進むことが予想される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年11月に工事着手した付替県道井尻八百津線の工事が完了し、平成29年10月29日に供用開始。 ・平成28年9月から、転流工(仮排水トンネル)工事に着手し、平成31年1月に貫通、現在工事を継続して実施中。 ・平成31年3月末までに、事業費約877億円を投資。進捗率約44%(事業費ベース) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダム本体工事着手に向けた設計及び関連工事を実施する。 ・転流工の工事を継続するとともに、付替国道418号の八百津町潮南地区から恵那市飯地地区間の延長約3.5km及び、付替県道大西瑞浪線約0.9kmの整備を実施する。 	<p><コスト削減></p> <ul style="list-style-type: none"> ・CSG工法(現地発生材(土石)とセメント、水を混合して得られる材料を用いて打設する工法)を採用し、現地の材料を有効利用するため、環境保全、工期短縮、コスト削減を図ることが可能。 ・付替国道418号8号橋において、支承及び伸縮装置の選定を行いコスト削減。
設楽ダム建設事業	愛知県北設楽郡設楽町	昭和53年度 ～令和8年度	約2,400(H30) 約2,400	<ul style="list-style-type: none"> ・流域の人口(3市1町)は、約59万人であり近年横ばいとなっているが、世帯数は増加傾向にある。 ・豊川の水と温暖な気候の恵みを受け、露地野菜や果物、園芸作物などの農業が盛ん。 ・三河港周辺の臨海工業地帯では自動車産業を中心とした工業生産活動が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年3月から、転流工(仮排水トンネル)工事に着手し、平成31年3月に貫通。 ・平成31年3月末までに、事業費約750億円を投資。進捗率約31%(事業費ベース) 	<ul style="list-style-type: none"> ・工事用道路工事、付替道路工事等を継続するとともに令和元年度より本体工事(基礎掘削)に一部着手する。 	<p><コスト削減></p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋梁の伸縮装置について、従来の鋼製ジョイントから、初期コスト・ランニングコストに優れた新技術のアルミ製ジョイントを採用することにより、コスト削減を図っている。 ・本体の打設期間について、冬季期間に打設を行うことにより、工期短縮を行い仮設備施設の賃料のコスト削減を図った事例があり、設楽ダムでもその活用について検討する。 ・付替国道257号と付替県道小松田口線の交差点部において、設計条件の見直しを行いコスト削減。 ・付替県道設楽根羽線から管理用通路へのアクセス方法について、既存ボックスカルバートを利用する形状に変更することでコスト削減。

中部地方整備局のダム事業進捗等について

別表

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回事業評価時点 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減
三峰川総合開発事業 (美和ダム再開発)	長野県伊那市	昭和62年度 ～令和5年度	約523(H29) 約523	<ul style="list-style-type: none"> 令和9年には、この地域にリニア中央新幹線が開業する予定で、人口の増加や産業・観光の発展に期待が寄せられている。 三峰川、天竜川上流の氾濫により浸水の恐れのある区域を含む3市3町4村の人口は、ほぼ横ばいの傾向。 	<ul style="list-style-type: none"> <洪水調節機能の強化> <ul style="list-style-type: none"> 堆砂掘削は平成17年に完了している。 既設美和ダムの利水容量の一部洪水調節容量への振り替えについて、関係機関との調整が整い令和元年5月に完了した。 <貯水池堆砂対策> <ul style="list-style-type: none"> 土砂バイパス施設は平成17年に完成している。 <貯水池堆砂対策> <ul style="list-style-type: none"> 湖内堆砂対策施設は平成27年から整備に着手している。 平成31年3月末までに、事業費約484億円を投資。進捗率約92%(事業費ベース) 	<ul style="list-style-type: none"> 引続き、「湖内堆砂対策施設」の整備を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> <コスト縮減> <ul style="list-style-type: none"> ストックヤードの埋め戻しや斜路で必要な土砂を、購入土から貯砂ダム堆積土に変更。 湖内堆砂対策施設の土砂侵食課程を把握するためのモニタリング設備についてモニタリング箇所の再検討を行いコスト縮減。
天竜川ダム再編事業	右岸:愛知県北設楽郡豊根村 左岸:静岡県浜松市天竜区佐久間町	平成16年度 ～令和3年度	約790(H27) 約790	<ul style="list-style-type: none"> 地域開発の状況については、流域内は、平成24年4月から新東名高速道路が開通するなど、東名高速道路、国道1号、JR東海道新幹線等、東西を結ぶ、国土の基幹をなす交通の要衝となっている。 こうした状況のもと、浜松市並びにその周辺地域を含む浜松地域は、自動車産業、オートバイ産業、楽器産業が盛んである。 天竜川の氾濫により浸水のおそれのある区域を含む浜松市及び磐田市の人口は、ほぼ横ばいであり、大きな変化はない。 	<ul style="list-style-type: none"> 天竜川ダム再編事業は、平成21年度に建設事業に着手し、これまでに進入路の整備、置土実験による物理・生物環境への影響把握を実施してきた。現在は、平成27年度より恒久堆砂対策工法検討委員会を設立し、平成31年1月より堆砂対策工法の基本構成を決定した。 平成31年3月末までに、事業費約113億円を投資。進捗率約14%(事業費ベース) 	<ul style="list-style-type: none"> <洪水調節> <ul style="list-style-type: none"> 本事業の実施においては、天竜川の治水安全度の向上のために、新たに洪水調節機能を確保することの重要性に鑑み、効果の早期発現に向け、事業の進め方を含めた段階的な対応について検討している。 <貯水池堆砂対策> <ul style="list-style-type: none"> 天竜川ダム再編事業環境検討委員会にて得られた知見を基に、下流河道への影響を把握するための置土実験を継続実施する。また、堆砂施設の調査・設計を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> <コスト縮減> <ul style="list-style-type: none"> 斜面对策において、場所に応じて対策工法を選定し、コスト縮減。